世界最大のオーガニックワイン見本市 ミレジム・ビオ開催

19か国・1,500社が出展 入場者はコロナ禍前の水準に回復

オーガニックワインとして認定された製品だけを対象にした見本市、「ミレジム・ビオ（Millésime Bio）」が1月30日から2月1日までの3日間、モンペリエの見本市会場で開かれた。この見本市は、オクシタニー地域圏（ラングドック地方およびミディ・ピレネー地方）のオーガニック栽培ワイン生産者の専門家団体である「シュッド・ヴァン・ビオ（SudVinBio）」が1993年に15ドメーヌで始めたもの。ユニークなコンセプトが人気を呼び、この10年来急激に規模を拡大。今では世界最大のオーガニックワイン見本市に発展した。

ミレジム・ビオは今年で30回目を迎え、19か国から15%増の新規出展者を含む1,500社が参加し、さまざまな意欲的取り組みが行われた。入場者も前回より32%増え、コロナ前の2020年に達成した1万人台の数字を再び取り戻し、10,300人となった。

通常の見本市に先立って、コロナ禍の中で2021年に始まった画面越しにインターネットを利用して交流する“デジタル見本市”も1月22日、23日に行われ、300企業が参加し、800人の顧客と計3,100回の意見交換を行った。

ミレジム・ビオの規模拡大に寄与しているのが、数年前から始まったビール、シードル、蒸留酒など、ワイン以外のアルコール飲料の出展だ。とくにビール生産家がオーガニックの分野に積極的に参入しており、会期中、“ビオ・ビール”に関する興味深い講演会が開かれた。また、オーガニックのバルクワインの需要も増加しており、この市場に焦点を当てた催しも開催された。さらに、ブドウ栽培家の高齢化が進行しており、今後数年間で2,000以上のドメーヌが次世代にバトンタッチされるといわれている中、次世代の栽培家にとってほぼ必須といわれるオーガニック栽培を担う若い栽培家を支援するために、40歳以下でブドウ栽培を始めて7年未満の栽培家の製品だけを集めた特別コーナーが設けられた。

ミレジム・ビオのジャンヌ・ファーブル会長は、「今回のミレジム・ビオはコロナ禍以前の入場者数を取り戻し、さらにそれを上回ることができた。これは、オーガニックワインに対する市場のニーズが確固たるもので、ミレジム・ビオが世界最大のオーガニックワインフェアとして評価されていることの証左だ」と語った。

例年通り海外からの来場者が多く、今回も訪問者の20%以上が50か国を超える海外からの入場者だった。国別ではベルギー、ドイツ、アメリカ、スイス、カナダ、英国が上位5か国を占めた。また、海外からの訪問者のうち、15%は北米から、6%はアジアからだった。

ミレジム・ビオを主催するシュド・ヴァン・ビオのニコラ・リシャルム会長は、「海外からの入場者の増加はフランスの生産者にとっては良い兆候であり、輸出を拡大する余力があることを示している」と指摘した。

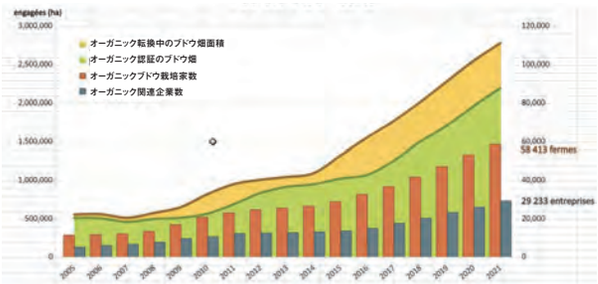
次回のミレジム・・ビオは今回と同じくモンペリエの見本市会場で2024年1月29、30、31日の3日間開催される。

会期中に開かれたさまざまな講演会の中から興味深い点を紹介する。

オーガニックワインの生産、販売動向を定期的に調査しているアジャンス・ビオがまとめたフランスのオーガニックワインの販売状況によると、2010年に3億2,200万EURだった販売額が2021年に約4倍に増え、12億EUR（1 EUR＝140円で1,680億円、以下同）に達している。

グラフは2005年以降のオーガニックワインの栽培面積の推移で、緑色傍線はオーガニックワイン生産認証ブドウ畑の面積、黄色は認証待ち（転換中の）ブドウ畑面積である。この5年来、両者とも急激な右肩上がりの傾向が伺える。ベージュの

フランスにおけるオーガニックブドウ栽培面積の変遷



ヨーロッパの主な認証ラベル

棒グラフは認証を得た農場数で2021年に5万8,413軒。ブルーの棒グラフは流通、販売、輸出などに関わっている企業数で、2021年は2万9,233企業となっている。

フランスのオーガニックワインの生産地域を見ると、ほとんどがラングドックを中心とする地中海沿岸部だが、最近はジロンド県（ボルドー）の伸びが目立ち、2021年に全体の16%を占めている。

オーガニック製品を識別するための多様なラベルがあるが、その認識度、信頼度はさまざまだ。また、国によってその割合は大きく異なる。

ミレジム・ビオが2022年の9月19日から29日まで、フランス、ベルギー、ドイツ、英国のそれぞれ1,000人、合計約4000人を対象に行った、認証ラベルに関する消費者調査アンケートの結果が発表された。

フランスで最も知られているオーガニックマークは、いわゆる「ABマーク（Agriculture Biologique）」で、95%の人が知っていると答え、その意味、内容についてもよく理解している。フランスでは次いでEU基準の通称「ユーロリーフ」と呼ばれるオーガニックマークの認知度が高い。また、最近、「二酸化硫黄無添加（Sans Sulfites Ajoutés）マーク」も知られるようになってきた。

ラベルごとの認知度は国によって大きく異なる。例えば、フランスの消費者のほとんどが知っているABマークはドイツ、英国では知られていない。ドイツでは、これに代わって、ドイツのオーガニックマークである「Bio nach EG-Oko-Verordnung」の認知度が高い。

フランスでよく知られているABマーク添付製品の長所について最も回答が多かったのが「環境にやさしい製品だから」、ついで「消費者の健康に良いから」、「製品の質が良いから」の順となっている。

また、「オーガニック製品が一般の製品より高いのは当然だと思うか」という質問に61%の人が当然だと答えている。さらに、「オーガニックワインのラベルは信頼できるか」という質問には、10人中7人ができると答えており、この割合は調査した4か国でほぼ同じで、オーガニックワインのラベルがヨーロッパ全体でかなり知られ、高い信頼度を獲得していることが確認された。　（Toshio Matsuura / Paris）

Domaine des Malandes
ドメーヌ・デ・マランド
①シャブリ② 2019 ③ AOP シャブリ④ 29ha

Champagne Leclerc Briant
シャンパーニュ・ルクレール・ブリアン
①エペルネ② 1990 ③ AOP シャンパーニュ④ 9ha

Champagne Larmandier-Bernier
シャンパーニュ・ラマルディエ・ベルニエ
①ヴェルテュ② 2003 ③ AOP シャンパーニュ④ 19ha

Champagne Chassenay d'Arce
シャンパーニュ・シャスネ・ダルス
①ヴィル・シュール・アルス② 2013 ③ AOP シャンパーニュ④ 315ha

Domaine Louis Sipp
ドメーヌ・ルイ・シップ
①リボヴィレ② 2005 ③ AOP アルザス④ 40ha

Dampt Frères
ダンプ・フレール
①コラン② 2019 ③ AOP シャブリ④ 60ha ⑤ HVE

Domaine de l'Enclos
ドメーヌ・ド・ランクロ
①シャブリ② 2005 ③ AOP シャブリ④ 29ha

Domaine Génot-Boulanger
ドメーヌ・ジェノ・ブーランジェ
①ムルソー② 2015 ③ AOP ムルソー④ 22ha

Château de Merande　シャトー・ド・メランド
①アルバン② 2008 ③ AOP サヴォワ④ 12ha
⑤ Biodyvin

Champagne Barbichon　シャンパーニュ・バルビション
①ジィ・シュール・セーヌ② 2007 ③ AOP シャンパーニュ
④ 9ha

Château de Melin　シャトー・ド・ムラン
①オーセイ・デュレス② 2010 ③ AOP ブルゴーニュ
④ 22ha

「ミレジーム・ビオ」のジャンヌ・ファーブル会長（左）と「シュド・ヴァン・ビオ」のニコラ・リシャルム会長。

①所在地②オーガニック認証取得年③おもなアペラシオン④耕作面積⑤その他の認証